

さがえ屋通信

お客様とのご縁を紡ぐおせんべい

神無月
2018.10.1

煎餅工房さがえ屋
通販事業部
山形県寒河江市
中央工業団地16
TEL:0120-38-3324
FAX:0120-05-3324



巨大鍋の
ふたを開ける
巨大クレーン

おたま代わりの
ショベルカー
(新車)

コック
さん達

日本一巨大鍋
三代目鍋太郎

山形の秋って
どだだだだだ

ネット店青柳の
カメラ片手にご近所旅
山形の秋を満喫
2018.9.16

山形、秋の風物詩 日本一の芋煮会

里芋を煮て食べる会。なのにショベルカーと巨大クレーン車が必要となるイベント。山形県民が誇る「日本一の芋煮会」です。全国から「芋煮愛」にあふれるイモニスト達が集結するこの大イベントに、私青柳も参加してきました！

日本一奪還！三代目鍋太郎

今年の目玉はなんと！でも三代目鍋太郎。経年劣化で引退した二代目鍋太郎の後を継ぎ、鍋の直径日本の一奪還を目標にクラウドファンディングを実施。三千万以上の資金を集め完成したのが三代目鍋太郎。鍋の直径はなんと6.5メートル！日本一の大鍋です。

山形の素材がふんだんに！

鍋太郎に近づくとその迫力に圧倒されます。この大鍋に投入されるのが、地元山形の食材！山形牛1.2トン、里いも3トン、ネギ350の本、こんにやく350の枚、味付け醤油70のリットル、隠し味に日本酒50升、砂糖20のキロ、山形の水6トン。6トンの薪で煮炊きされます。慣れ親しんだ山形の素材だから県民にも愛されていくのでしょね。

ギネス記録達成！

「8時間で最も多く提供されたスープ」として世界記録に挑戦！見事12695人に配って世界記録に認定！私も配られた一人としてとてもうれしく感動。実行委員の皆様ご努力に拍手です。



ネット店青柳の
カメラ片手にご近所旅
山形の秋を満喫
2018.9.16

駐車場は3時間まで無料



こだなだず

寒河江まつり「神輿の祭典」って

寒河江が熱く燃え上がる

「どっこい、どっこい」「どっこい、どっこい」タンソの音と掛け声、担ぎ手の熱気、観客の興奮が最高潮に――！第36回を迎えた寒河江祭り「神輿の祭典」18団体の本神輿と9団体の子供神輿が参加。きらびやかな神輿、担ぎ手の威勢の良さと粋な姿。寒河江市民が世代を超えてひとつになる日となります。

神輿の祭典の歴史

800年以上の歴史を持つ寒河江八幡宮。神輿が登場したのは1711年から1726年頃と伝えられています。現在の神輿の祭典は、寒河江を元気で楽しく明るい街にしようと昭和58年に寒河江青年会議所がはじめました。その後関係者の方々や各地域の神輿団体の努力に支えられ、参加団体も増加。神輿渡御すら知らない寒河江市民が東北最大級の神輿祭りを開催できるまでになりました。

歴史が織りなす渡御スタイル

神輿の祭典で面白いのが、三つの種類の神輿を楽しめる所です。寒河江八幡宮の御神霊が入る唯一の神輿の「本社神輿」、どっこいの掛け声が大迫力の「どっこい神輿」、浅草三社祭りの担ぎ方ソイヤの掛け声が粋な「江戸前神輿」。地方の神輿団体との交流の中で寒河江の地区にあった担ぎを選んだために生まれた、寒河江ならではの渡御スタイルです。

震え上がる感動

荘厳な雰囲気の中に迫力ある大神輿「寒河江八幡宮氏子青年神輿會」の担ぐ本社神輿は独特な雰囲気を感じ出しています。冷水につかり穢れを洗い落とし、心身を清めた者が担ぎます。何回見ても、なぜか震えるような感動を味わえます。私も寒河江市民だからでしょうか？大切な神事を継承しつつ活動する氏子會。私もお煎餅作りを介して、この地域を盛り上げていきたいらと思いました。

あとがきに代えて(編集・青柳)

山形の方言の「どだなだず」どちらかと言えば突っ込みに使う言葉です。意味としては「どういう事？」とか、関西の言葉では「どないやねん？」がニュアンス的には近いかもしれません。こだなだずは「こういうもんだ」という意味合い。うちの工場の煎餅マイスターは方言マイスターでもありません。事務所内でも山形弁が飛び交う楽しい職場です。今回のさがえ屋通信いかがでしたか？感想頂ければうれしく思います。